

# 伊藤伝右衛門と鶉森伏越樋

- 所在地 輪之内町塩喰 顕彰碑 大垣市横曽根町
- 時代 史跡 江戸時代 天明5年（1785）完成 （平成19年3月1日町指定解除）



大垣輪中の南部は、水はけの悪い低湿地のため悪水がたまり、作物も実らず、その上、度重なる水害に悩まされていた。そこで大垣藩主戸田氏教は、藩士の伊藤伝右衛門を工事責任者に命じ、鶉森伏越樋を築造させた。この工事は、浅草三村・横曽根村・外洲村の5カ村の悪水を集め横曽根村と安八郡塩喰村の鶉森とを結ぶ揖斐川の川底の下に木製トンネルを造り、輪中内よりも低い揖斐川下流へ排水するというものである。

工事は、天明3年（1783）から同5年（1785）までの3年の月日をかけ、完成させた。

ところが、大水になっても水が一向に引かない。伏越樋が地上に出たところから、さらに四千八百余間排水路を南下させ、根古地の対岸で放流することにした。こうして、

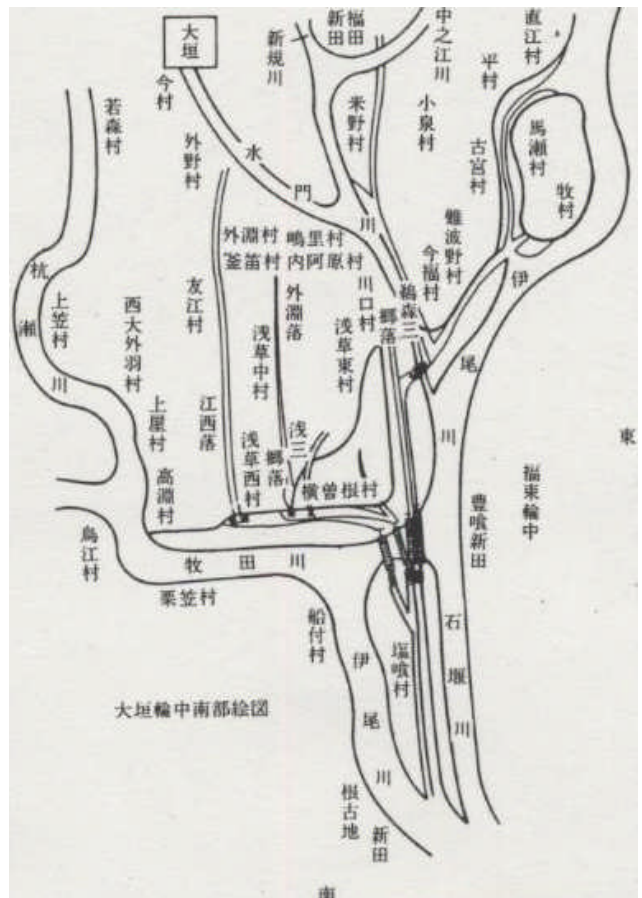
天明5年（1785）完

成をみることになった。

工事が完成した同年5月23日、責任を感じ伝右衛門は自宅において自刃する。伏越樋の工事に一命をかけた。まさに「殺身仁民」の壮烈な生涯を遂げた。

この伏越樋は明治38年（1905）年の三川分流工事の竣工によって、不要になるまでの120年間もの間、木造のためほぼ30年ごとに伏せ替えをして、悪水の排水に絶えずつとめてきた。こうした伝右衛門の熱意と潔癖さは、功績とともに語りついていくべきである。そこで同41年に鶉森（塩喰）の白山比売神社の境内にその遺徳を顕彰しようと顕彰碑が建てられ、その碑には、「殺身仁民」と刻まれた伝右衛門の生き方が讃えられている。

現在この顕彰碑は、杭瀬川河川工事により、258号線沿いの伏越樋近くに移された。



大垣輪中南部絵図（1800年）大垣市史より